

北陸電力志賀1号機で、今度は制御棒が引き抜け

定検中の志賀原発1号機で、8月21日に制御棒が引き抜ける事故が起きていたことが、11月4日になって明らかになった。6月28日、4日前に発生していた制御棒の誤挿入を隠したまま「プルサーマル計画」の申入れを行った、その志賀原発1号機で、また制御棒事故が起きていたのだ。

前回の誤挿入事故は遅ればせながら7月9日の北陸電力の「マンスリー・レポート」で公表されたが、今度は原子力・安全保安院が原子力安全委員会に「保安検査結果等」の報告を提出したことで初めて判明した。北電によれば、原発所長が「軽微な事案であり、報告の必要なし」と判断したため公表しなかったということで、地元紙の報道後もこの件に関して北電のプレス発表は一切ない。

報道で知って驚いた私たちは、早速、北電と県に『①「プルサーマル計画」実施の断念、②安全協定と連絡基準覚書の抜本的見直し』を求めて申入れを行った。しかし北電は、プルサーマルに関しては「ウラン燃料のリサイクル、プルトニウムの平和利用」等々、宣伝パンフに書いてあることを繰り返すばかり。制御棒事故については人為ミスについては頭を下げたものの「連絡する必要ない事案なので連絡しなかったままで情報隠しというのは誤解。“軽微な事案”という所長の判断は妥当だ」という対応だった。

県は「制御棒1本なら全部抜けても臨界にはならない。保安院も、安全上の問題ではなく品質保証上の違反だと指摘している」と、北電をかばうことに終始した。やりとりの中で、県へは9月9日に北電から通報があったことが明らかになったが、10月4日に開催された県の原子力環境安全管理協議会ではこの件についての報告はまったくなかった。この点について追求すると「保安院が公表したものについては、これからは安管協でも取り上げる」と、あくまでも保安院に追随する姿勢を示した。

99年に起きた臨界事故が07年に発覚した後、「再発防止策」が講じられたはずなのに、結局、単純な人為ミスで制御棒の誤作動が起きるといふ沸騰水型原発の重大な構造的欠陥は少しも改善されていないのではないか。しかも北電の「隠す企業風土」はまったく改まっていないのだ。こんなことでは、プルサーマルの実施など、とても認めるわけにはいかない。

(ストップ!プルサーマル・北陸ネットワーク 中垣たか子)